

経済・金融 フラッシュ

貿易統計 17年10月－自動車輸出の不調から輸出数量の伸びが鈍化

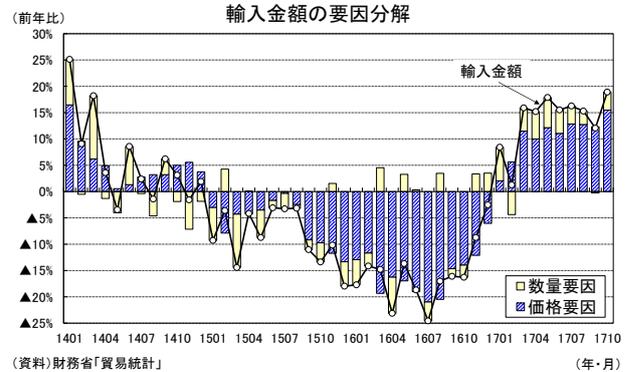
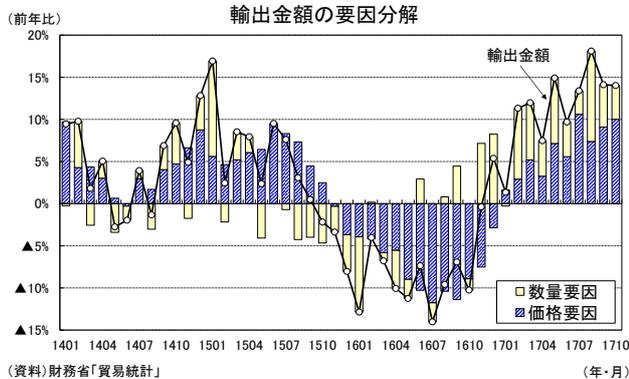
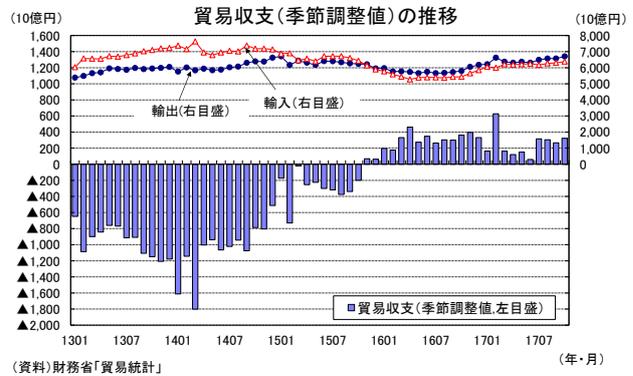
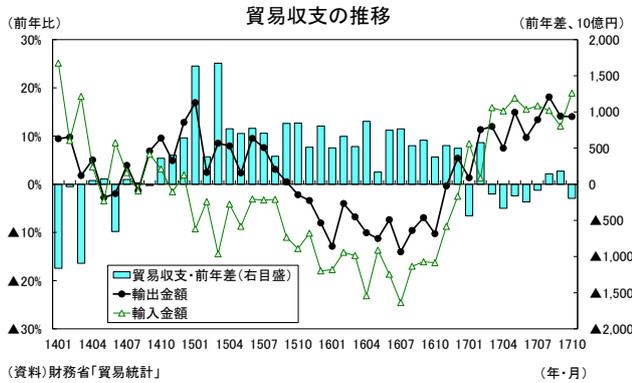
経済研究部 経済調査室長 斎藤 太郎

TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

1. 原油高の影響で貿易収支が悪化

財務省が11月20日に公表した貿易統計によると、17年10月の貿易収支は2,854億円と5ヵ月連続の黒字となったが、事前の市場予想（QUICK集計：3,300億円、当社予想は3,345億円）を下回る結果となった。輸出入ともに前年比で二桁の高い伸びが続いたが、原油価格上昇の影響から輸入の伸び（前年比18.9%）が輸出の伸び（同14.0%）を上回ったため、貿易収支は前年に比べ▲1,958億円の悪化となった。

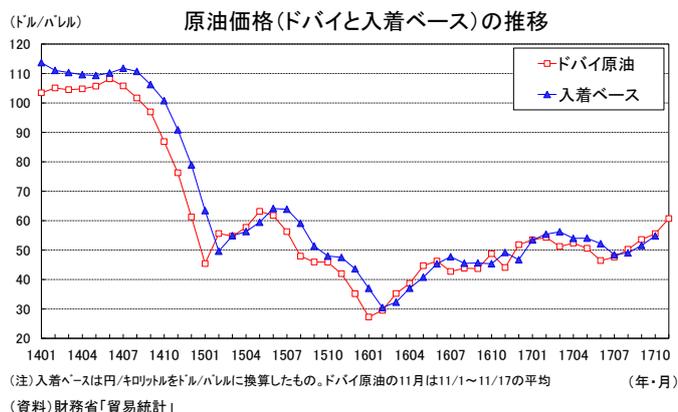
輸出の内訳を数量、価格に分けてみると、輸出数量が前年比3.8%（9月：同4.8%）、輸出価格が前年比9.8%（9月：同8.9%）、輸入の内訳は、輸入数量が前年比3.2%（9月：同▲0.2%）、輸入価格が前年比15.2%（9月：同12.3%）であった。



季節調整値の貿易収支は3,229億円の黒字となり、9月の2,666億円から黒字幅が拡大した。輸

出が前月比 2.0%の増加となり、輸入の伸び（前月比 1.2%）を上回った。

10月の通関（入着）ベースの原油価格は1バレル=54.8ドル（当研究所による試算値）となり、9月の51.6ドルから上昇した。足もとのドバイ原油は60ドル程度で推移しており、通関ベースの原油価格は11月に50ドル台後半、12月に60ドル台まで上昇することが見込まれる。輸出は底堅く推移しているが、原油価格上昇に伴う輸入価格の上昇を主因として、先行きの貿易収支（季節調整値）は縮小する可能性が高いだろう。

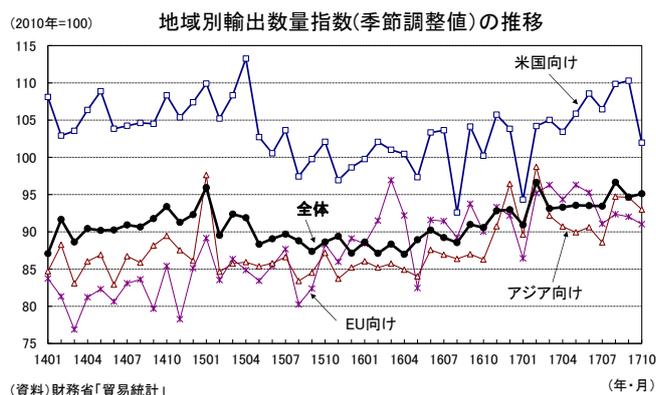


2. 自動車輸出(数量)が減少

10月の輸出数量指数を地域別に見ると、米国向けが前年比 1.6%（9月：同 6.2%）、EU向けが前年比 0.6%（9月：同▲1.7%）、アジア向けが前年比 7.8%（9月：同 9.0%）となった。

季節調整値（当研究所による試算値）では、米国向けが前月比▲7.6%（9月：同 0.4%）、EU向けが前月比▲1.1%（9月：同▲0.4%）、アジア向けが前月比▲1.7%（9月：同▲0.1%）、全体では前月比 0.5%（9月：同▲2.1%）となった。10月の水準を7-9月期と比較すると、アジア向けは 0.4%上回っているが、米国向けは▲6.3%、EU向けは▲0.9%下回っている（全体では 0.2%）。

米国向け、EU向けは特に自動車の落ち込みが大きく（米国向けは前年比▲7.2%、EU向けは同▲4.2%、いずれも数量ベース）、輸出全体を大きく押し下げた。大手自動車メーカーが無資格検査問題で生産量を大きく落としたことが影響している可能性がある。



7-9月期のGDP速報では、財貨・サービスの輸出が前期比 1.5%と2四半期ぶりの増加となる一方、財貨・サービスの輸入が同▲1.6%と5四半期ぶりに減少したため、外需寄与度が前期比 0.5%と成長率を大きく押し上げた。

10-12月期は輸出が底堅さを維持するものの7-9月期から伸びが鈍化すること、国内需要の持ち直しを反映し輸入が増加に転じることから、外需のプラス幅は縮小することが予想される。

(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。